



浜宮祭

# 五月・浜宮祭齋行

新緑の五月五日(こどもの日)、恒例の五月・浜宮祭が江口区の五月宮と神湊区の浜宮でそれぞれ齋行された。

ここ数年雨に見舞われることのあった五月・浜宮祭ではあるが、本年は好天に恵まれ、当日、高向宮司以下神職四名が神湊に鎮座する浜宮へ出向。浜宮には御神殿はなく石祠で、その御神前に海川山野の味物に加え、「赤飯」「粽」「ガメの葉饅頭」「菖蒲酒」など、端午の節句を象徴する神饌をお供えし、午前十時三十分浜宮祭を齋行。当大社責任役員、氏子会長、地元総代、神湊区長をはじめ地元の方が多数参列された。

引き続き、江口区の五月ヶ丘に鎮座する五月宮に移動。五月宮も御社殿はなく大きな常緑樹を依代とする神籬祭場で、その前庭



五月祭



# 宗 像

遷宮で結ぶ人の輪心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮

## 6月祭事暦

- 毎月1・15日 <sup>つきみ</sup>月次祭
- 午前10時～  
高宮祭  
第二宮・第三宮祭  
宗像護国神社祭(1日)
- 午前11時～  
総社祭  
浦安舞奉奏(1日)  
豊榮舞奉奏(15日)



日本の国は、太陽を中心とする大自然の恵みを受け四季折々に海の幸、山の幸をいただく。その一方で台風・地震・火山等の大自然の猛威に畏れ自然界に従順してきた。その長い歴史の中、我々の祖先は大自然の中に「恩恵」と「畏怖」の念を懐き、八百万の神を感じ共生してきた宗教的風土がある

▼この多神教の国が、開国より一神教世界の影響を受けつつ欧米的に発展してきたが、この人間中心主義社会の流れの中、近年次第に日本人として大切な目に見えない心の支柱を少しずつ取り外してきているように思う▼いま、児童虐待、無差別殺人、そして自殺者はここ数年、毎年三万人を連続して超えているといわれている。この混迷する世の中、また日本の社会生活の伝統を崩す夫婦別姓の法案が国会に提出されようとしている。これは必然的に親子別姓となり、家族解体の危険性高まり、伝統的な日本の「家」の存在にかかわり社会生活に混乱と不安が広がる恐れがある。妻より夫は「毛」、夫より妻は「家内」と言われているように、日本では「家」という核があり共同体をつくりあげ、地域社会を大事に、自然を大切にしてきた▼多神教的、伝統・文化の長い歴史をもつ我国の根本にある「風土」、その大自然の中に人間と同じように「いのち」を感じ、自然と共生できる民族として共に「いのち」を未来に繋いでゆきたいものである。(渡)

## 木組の家 匠の技

総合建築業

# 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

神具・装束・授与品



- 装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
フリーダイヤル 0120-075-980
- 福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401  
フリーダイヤル 0120-055-092
- 授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23  
フリーダイヤル 0120-075-820



五月祭

に浜宮祭と同じく神饌をお供えし、午前十一時浜宮祭参列者に加え、江口区長、玄海少年自然の家関係者ら地元の方が多数参列される中、五月祭を齋行した。

若葉が敷かれた折敷に盛りられた赤飯、がめ煮・臈・粽・ガメの葉饅頭を古式ゆかしく栗箸でいただきますながら、神人和楽の一時を過ごした。

今から約六百年前の当大社祭事記録によれば、この五月・浜宮祭に関して海上に「濱殿」という御旅所が江口浜(河口)に設けられ祭祀が行われたとある。



五月祭での直会



担当者より説明を受ける  
氏子青年会員、玄海未来塾生ら

### 第11回 宗像大社氏子青年会・玄海未来塾 沖ノ島清掃奉仕

四月二十六日、宗像大社氏子青年会(会長小林栄二氏)、地域まちおこし団体「玄海未来塾」(代表小林正勝氏)の会員、塾生合わせて約五十名が沖ノ島へ渡島、清掃奉仕を行った。

この清掃奉仕は、年に一度毎年五月二十七日に約二五〇名に及ぶ一般参拝者を受け入れる「沖津宮現地大祭」にあたって実施され、本年度で十一回目となる。

### 宗像市長選挙 谷井博美市長二期目へ



任期満了に伴う宗像市市長選挙は四月二十五日投票が行われ、現職谷井博美氏が新人二名に一万二千票以上の大差をつけ再選を果たした。

当日は晴天に恵まれ午前八時に鐘崎港を出港、風の海上を進むこと約二時間で沖ノ島へ到着。直ちに海中で禊を行い、島の中腹に鎮座される沖津宮へ向かった。

先ず葦津禰宜より挨拶・説明があり、沖津宮で奉告祭を齋行した後、奉仕作業を開始。本殿の屋根に積もった枯葉を落とす等の本殿周りの整備、崩れかかった参道脇に草を移植する等の参道整備、生活水汲み上げ場の整備、社務所外壁の塗装補修等、平素勤務している一名の神職では困難な作業を約二時間御奉仕頂いた。

平成22年度 宗像大社奨学金受給生奉告祭 第五十一期を迎え、受給生は延べ八一四人に

四月二十九日(昭和の日)、今年度の奨学金受給生奉告祭が斎行され、今春高校に進学された第五十一期生を含む本年度の受給生(第四十九〜五

十一期生)がご神前に参集した。当日は宗像・福津両市内より約六十人の受給生が保護者らとともに、午前十一時から

の昭和祭に参列、終了後拜殿に昇殿し奉告祭が斎行され、一同有為な人材になるよう勉学に勤しむことをご神前で誓った。

奉告祭後は清明殿で選定書授与式と説明会が行われ、高向宮司より第五十一期生代表の石川貴大(日の里中出身、宗像高)君と、磯邊朝香(同中出身、福岡高)さんに選定書が授与された。

その後、担当神職が宗像大社奨学金についての説明、生徒一人一人がテーマに沿った作文を書き、終えた生徒から奨学金を受け取り散会となった。

当大社の奨学金制度は昭和三十四年の今上陛下御成婚を奉祝して制定され、翌年の同三十五年に第一期生として宗像市・郡中学校出身者(當時は六校)に支給され今日に至っている。現在では宗像・福津市内十校より各校二名づつ選定し三年間支給している。今春からの第五十一期生で延べ八一四人となった。

今年度奨学金を受給される一同には、大神様の御神徳をいただき有意義な学生生活を送っていただくことを切に御祈念申し上げます。



高向宮司より選定書を受ける新受給生代表



第51期生19名



昭和祭

宗像大社奨学金第51期受給生19名

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 藤島 亮 (大島中)    | 水 産 高       |
| 田志 玲良 ( " )   | 糸 島 高       |
| 池浦 愛里 (玄 海)   | 西 南 学 院 高   |
| 大庭 由華 ( " )   | 博 多 高       |
| 黒川健太郎 (日の里)   | 香 椎 工 業 高   |
| 山口 智子 ( " )   | 宗 像 高       |
| 石川 貴大 (宗像中央中) | 宗 像 高       |
| 磯邊 朝香 ( " )   | 福 岡 高       |
| 井上 諒水 (城山中)   | 福工大附属城東高    |
| 渡邊 愛理 ( " )   | 博 多 高       |
| 古賀 亮 (河東中)    | 香 椎 工 業 高   |
| 山口 美沙 ( " )   | 精 華 女 子 高   |
| 小山 優 (自由ヶ丘中)  | 博 多 青 松 高   |
| 平野 史香 ( " )   | 遠 賀 高       |
| 長島奈々実 (津屋崎中)  | 古 賀 竟 成 館 高 |
| 染井 翔太 (福間中)   | 福工大附属城東高    |
| 田中 翔司 ( " )   | 光 陵 高       |
| 縄田 健吉 (福間東中)  | 香 椎 工 業 高   |
| 鈴木 麻紀 ( " )   | 東海大附属第五高    |

# 沖津宮・中津宮両宮 春季大祭齋行 筑前大島で、五穀豊穡と豊漁を祈念

齋行、神饌と共に  
島民の真心から  
なる海川山野の  
献品・献魚が供え

四月二十七日・二十八日の兩日(旧暦の三月十四・十五日)、前日までの雨も止み青空の下、宗像大社沖津宮・中津宮両宮の春季大祭が、筑前大島で齋行された。

二十七日は午後三時より中津宮にて地主祭を齋行、同五時島の北側にある沖津宮遥拝

所、中津宮で宵宮祭が各々齋行され大祭齋行の無事を祈った。

大祭当日は、奉仕員、参列者一同各祭場に別れ、午前八時半より宮崎区の厳島神社で、同九時半より大島最高峰の御嶽山に鎮座する御嶽神社でそれぞれ春祭が執り行われ、同

九時から遙かなる水平線上に浮かぶ沖津宮を拝する沖津宮遥拝所にて沖津宮春季大祭が齋行された。

午前十一時より中津宮春季大祭を



高向宮司より感謝状と記念品を受ける大島の氏子の方々



氏子奉幣氏を御奉仕いただいた佐藤隆三氏

午後一時三十分からは、境内の土俵で島内小学生による恒例の相撲大会が開催され、境内には大きな歓声が響き一層の賑わいをみせた。

大島では春秋大祭をはじめ各祭典、諸行事は全島挙げて五穀豊穡と豊漁が祈念されており、本年度も盛大裡に沖・中

両宮春季大祭は終了した。尚、大祭諸準備等に御奉仕いただきました沖・中両宮奉賛会(古賀理会長)、同敬神婦人部(河辺恒子部長)、同翼賛会(遠藤三保会長)の皆様には心より御礼申し上げます。

# 宗像大社奉納盆栽展

第二十七回宗像大社春季奉納盆栽展が、五月二日～六日の四日間にわたり本殿西側の境内で開催された。

二日午前九時より宗像大社奉納盆栽会員、担当神職、管理員によって会場設営が始められ、会場が完成すると出品盆栽を各地区から搬入作業を行い、大小合わせて百鉢以上の優美な黒松、五葉松、紅葉などの多くの盆栽が境内に並び見事な展示となった。

この盆栽展は、毎年春と秋(年二回)に開催され、宗像・福津市内の盆栽愛好家が「宗像大社の御神徳の発揚に努め、併せて会員相互の親睦を計り、日本の伝統と格調高き美を遺憾なく表現出来る盆栽の普及盆栽技術の研鑽に励み、盆栽発展の一助とする」ことを目的に、宗像大社奉納盆栽会(現会長 石松重敏氏)を結成し今日に至る。

期間中は夏日の様な暑さとなる日もあったが、参拝者は熱心に盆栽を愛でながら静寂な一時を過ごされていたのが印象的であった。



# 宗像大社菊花会 玄海小学校に菊資材を贈呈



巫女より菊資材を受け取る玄海小学生代表

五月晴れの五月十日、宗像市立玄海小学校体育館にて恒例の菊資材贈呈式が行われた。  
同校では毎年小学三年〜六年生の児童を対象に情操教育の一環として菊作り栽培に取り組んでおり、今年で十一年目を迎える。  
この菊作りには、ボランティア団体「匠の会(会長 小並範義氏)」も指導にあたられており、地元、PTA、学校



担当神職による挨拶

一丸となって取り組んでいる。この趣旨に当大社、同菊花会も賛同し、例年菊作りを始めるこの時期に菊鉢や肥料などを寄贈している。  
当日は当大社巫女から児童へ資材が手渡されると「毎年ありがとうございます。本年も皆で協力して綺麗な花を咲かせます。」と力強い御礼の言葉を頂いた。  
秋には校内菊花展を開催するとともに、当大社境内で開催される西日本菊花大会にも、児童達が丹精込めて作った菊が出品されている。  
少子化の影響もあり年々児童数も減少傾向ではあるが個性豊かな菊花がこの神郡宗像の秋を彩る日が今から楽しみである。



## 新人紹介

4月1日付で、巫女三名が新たに奉職いたしましたので、ご紹介致します。

①名前 ②生年月日(年齢) ③出身 ④経歴 ⑤奉職理由 ⑥特技(趣味) ⑦抱負

## 巫女



①石田 遥花(いしだ・はるか)  
②平成3年5月28日(19歳)  
③宗像市田熊  
④折尾愛真高等学校  
⑤幼い頃より祖父によく大社につれてきてもらっており、高校1年から3年間巫女見習をしておりました。そのようなご縁で巫女になりたいと思うようになりました。  
⑥スポーツ全般。特に中学時代にしていたテニスは今も続けています。  
⑦地域の方や遠方から参拝された皆様に質問を受けても、スラスラと答えられる優しく心配りができる巫女さんになりたいです。



①古野 愛美(ふるの・まなみ)  
②平成3年10月4日生(18歳)  
③宗像市原町  
④福岡工業大学付属 城東高等学校  
⑤宗像大社に参拝し、巫女さんの姿に憧れていました。母の強い勧めもあり奉職を希望しました。  
⑥野球観戦。父は巨人ファンですが、私はホークスの大ファンで、シーズンになるとよく野球を観に行きます。  
⑦宗像大社や神社に関する知識を身につけ、参拝の皆様と上手にコミュニケーションがとれるようにいろいろと勉強させていただきたいと思っています。



①沖西 彩香(おきにし・あやか)  
②平成元年6月2日(20歳)  
③宗像市大島  
④福岡工業大学付属 城東高等学校  
⑤漁師をする父のもと大島で生まれ育ち、中津宮の伝統や文化に興味があり奉職を希望しました。  
⑥バレー。中学校ではセンターでした。  
⑦この度、ご縁あって中津宮の巫女として奉職させていただきました。マイペースでゆっくりしたところもありますが、笑顔を絶やさず、大島の氏子さんや、参拝される皆様に愛される巫女になりたいです。

# 神社職員電気自動車を試乗

## 三菱「アイ・ミーブ」

四月二十七日、九州三菱自動車販売(株)が新たに開発した電気自動車「アイ・ミーブ」の試乗会が当大社大駐車場で行われ、神職、巫女をはじめ職員が最先端をいく電気自動車を試乗した。

当日は話題の電気自動車に乗れるというところで、それぞれ社頭等の持ち場より交代で職員が大駐車場に集まった。

実際に試乗してみると「電気自動車は非力という先入観を覆す力強さであり、エンジンを始動させても無音に近く「エンジンがかかっています」と担当の方に言われないと分からないほどであった。



三菱担当者より説明を受ける職員

さらに変速シヨックや走行中の振動もほとんど無く快適な乗り心地に驚くことばかりであった。

車の充電は、家庭用コンセント(二〇〇V、一〇〇V)からでも充電が可能で、急速充電器を使えば三十分で約八〇%の充電が可能。さらに一〇〇%フル充電すると約一六〇キロも走行でき、環境にも家計にも優しい自動車とのことであった。

但し販売価格は約四五〇万円(補助金で約二九〇万円)とまだまだ高額で、普及させるには様々な課題もあるようだが、環境意識の高揚、天然資源の枯渇などの諸問題を考えると、ガソリン車から電気自動車への移行もすぐそこまで来てるようである。

政府によるエコカー減税、補助金などの優遇処置が追い風となり、当大社の車被風景にも電気自動車が増え始めています。今日、「時代の変革」を肌で感じさせる今回の試乗会であった。



試乗する巫女

# 宗像大社前駐在所 天野孝義巡查部長 福岡県警「地域警察活動部門」本部長賞を受賞

三月十一日宗像大社前駐在所の天野孝義巡查部長が、平成二十一年度福岡県警「地域警察活動部門」の本部長賞詞を受賞、四月二十八日には当大社の神職が発起人となり祝賀会を開催し受賞を祝った。

福岡県警では管轄内の警察官を対象に犯罪検挙部門など各部門において、実績を上げた優秀な警察官を毎年一〜二名表彰している。



御礼の挨拶をされる天野氏

天野氏は「地域警察活動部門」において、日常の防犯や地域行事の警備や各種問題の解決、住民と連携し地域に貢献したことなどが高い評価を受け、その最優秀賞である本部長賞をこの度受賞された。

天野氏は平成十九年八月に大社前駐在所に赴任、当大社の各諸行事はもとより、宗像警察署と当大社の橋渡し役、平素の巡回等、挙げればきりが無い程、お世話になっていいる。そのため日頃の感謝の意を込め、当大社が発起人となって地元の皆様約二十名とともに祝賀会を開催。当日は天野氏に天野氏夫人、二人の御息女にも出席いただき、終始和やかな宴となった。



福岡県内都市部では最近凶悪な事件が多発しているが、今年三年目となる天野氏を中心とする地域一丸となって事件のない平和なまちづくりにより更に協力していきたい。同氏のご健勝と更なるご活躍をご祈念申し上げます。

(続)

# 宗の寄物

246

いしいただし



宗像大社の神宝館に昭和十五年(一九八〇)から勤務され、平成十三年(二〇〇一)には大社の氏子奉幣使をされた堺豊三郎氏(九十二歳)をご存



軍事郵便から



堺豊三郎氏

本軍はこれを包囲しようとした。「徐州徐州と人馬は進む／徐州居よいか、住みよいか」。徐州会戦に参加。その後広大な大陸に戦線は果

知の方もあろう。私が堺氏を知ったのは若木台に暴力団が住みついたので、堺氏が住民の先頭となって暴力団を退去させたことを新聞が報じたときである。「凄い度胸の据った人がいるもんだ」と感心した。その堺氏には驚くべき過去があった。堺氏の略歴を自分史(幾山河を越えて・激動の八十年)から追ってみた。堺氏は福島県出身。大正八年(一九一九)生れ、パリ・ベルサイユで講和条約が締結された歴史的な年で

ある。昭和十二年二月に中学を卒業、十八歳であった。東京高師の受験に失敗。同五月に熊倉村役場の臨時雇員となり、兵事係。戸籍係補助職となった。昭和十三年(一九三八)一月十日、十九歳の時に福島県会津若松の陸軍歩兵第二十九連隊歩兵砲中隊に入隊をした。この第二十九連隊は、日清戦争後、ロシアに対する軍備として、新設された連隊で日露戦争では武勲をたてている。精強部隊である。軍事訓練を受けた後、同四月に満州・ハルピンへ。五月に中国軍が徐州近くに五十個師団の大兵力を集結。日

てしなく拡大していく。六月にハルピンに着き編成解除。七月牡丹江省方面駐屯、十二月伍長勤務上等兵となる。



勲七等

昭和十四年一月に関東軍下士官候補者隊に入隊。五月十二日、ソ満国境、ノモンハンで日ソ間の戦闘がおこる。ノモンハン事件である。ノモンハンとは中国東北部の北西辺境に近いハルハ河畔の地で、日満軍とソ蒙軍との交戦である。広大な大草原を従横に走るソ連BT重戦車と機械化部隊に日本軍は歯が立たず、日本側死傷者約一万七千、ソ連軍約九千という多大な犠牲を出して惨敗。堺氏は八月に参加している。九月十六日に停戦が成立した。



昭和十五年五、六月の一月間、ソ満国境で陣地構築作業で分隊長を命じられる。十月一日陸軍軍曹、十月三十一日会津若松に移駐。兵器係、初年兵教育にあたる。昭和十六年四月、戦功により勲七等に叙せられる。動員事務等に従事。十月連射砲中隊指揮班付編入。

十二月、愛知県豊橋市に移動出勤準備、同地にて太平洋戦争開戦を知る。十六年十二月八日、ハワイ真珠湾攻撃である。日本は中国大陸から東南アジアそして太平洋まで戦争をしていく。



**第五八六回**  
**宗像大社歌会詠草**  
 大野展男選 毎月25日メ切



**評** 福津市 若木台 野間 精一  
 スキャンポはガードレールに沿ひ生ひてひと雨ごとに朱の色の冴ゆる  
 丁寧に見て詠われては欲をいえば色の冴ゆる  
 のは新しい茎か、花かをほつきりさせたい。

**評** 福津市 中央 池浦千鶴子  
 駅裏は開発中にて盛られたる土にレンゲのわずかに咲きぬ  
 レンゲの持つ生命力に物のあわれを感じた作者である。

**評** 北九州市 八幡西区 吉田ウト子  
 父の忌の誄歌の笙とわれは聴く竹吹き渡らふ明けの風音  
 骨格のしつかりした歌である。結句に風があるので  
 四句は「竹群渡る」でいいのでは。

**評** 宗像市 日の里 石松 弘次  
 窓越しのあさの陽に光る楠若葉老い付くわれよ氣宇太くあれ  
 老いて猶強く生きんとする作者。上句は「朝の陽にひか  
 りかがやく楠若葉」とした方が下句とより良く昭応する。

**評** 北九州市 戸畑区 田中ハツセ  
 人々の思ひ上りのお仕置か旅へも行けず寒さに震ふ  
 これだけ天候が不順であれば誰もこのように愚痴りたくなる

**評** 宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子  
 若さとは唯それだけで素晴らしき我にはもはや遠き日なれど  
 そうなんだけど、やや観念的な処が惜しい。何か具体  
 が入るといいのだが。

**評** 宗像市 田久 巻 桔梗  
 拗ね鯉かめぐる仲間尾をむけてときに目玉をくりつと動かす  
 意欲的な作であるが、作者の企図するものが、「一、三  
 句の景の叙し方では、はつきりしないのでは。二句は  
 「泳ぐ仲間」にいいのでは。

**評** 福津市 星ヶ丘 佐々木和彦  
 宗像の春の献詠歌決めるべく玄界灘を眺望すなり  
 この意欲こそ大切である。期待しています。

**評** 宗像市 土穴 山本 静子  
 シンガポールへ転勤となりし孫一家帰り来るまできつと生きばや  
 祖母の願望である。結句は「われは生きたし」か「われ  
 生きあるや」。「ばや」はこの場合少々違う。

**評** 福津市 若木台 山崎 公俊  
 かけまくも畏き春の大祭はことばの前に太鼓響めり  
 折角大社の春の大祭を詠いながら「ことばの前」にて  
 は現状が明確でなく、じれったい。

**評** 北九州市 八幡西区 豊田 光子  
 珍しく亡夫の頭ちたる夢のなかこの世あの世の境はおぼろ  
 老いの嘆きの歌、「二、三句は「夢に頭ちたる亡き夫よ」  
 と順直に詠いたい。

**評** 福津市 光陽台 香月 照子  
 腰まがり杖つきながらとぼとぼとこれが人生と歩みゆくなり  
 一種の諦観のうた。「とぼとぼ」は俗っぽいので「春の  
 日」を「春夕べ」などとする。

**評** 福津市 浮羽町 向 則正  
 富士山をそびらに一面の干される桜海老紅く入り日に映ゆる  
 遠州灘での大景が「一面の」では狭少となるので「海  
 辺に」と直したい。

**評** 北九州市 八幡西区 遠藤 幸子  
 寒風を切りたる樺の末ながら芽吹く若葉のわが目にやさし  
 樺の若萌えをよるこぶ歌と思はれるが、上句が判ら  
 ない「寒風にひと冬吹かれし樺なり」なら判るが。

**評** 福岡市 南区 加野シノブ  
 真夜なかに深き宇宙の遠き星青き地球に光り投げつく  
 地球から見た星でなく星から見た地球を詠っている。そこがいい。

**評** 福岡市 南区 井田有久衣  
 錠剤を手のひらにのせこの一錠命の絆ぐつと呑みほす  
 大切な錠剤である。二句から四句を「手のひらにのす  
 この一錠命の絆」とする。

**選者詠**

いづこにてさくらの花に遊べるや椿に懸命なりし目白ら  
 ひとひらの桜見るなく逝く春か催花あめ降り桜あめ降る  
 糸切歯いちられてる三日にて葉桜となる さくらの力

**第五六一回**  
**俳句作品集**

宗像市 日の里 花田いつ枝  
 万愚節戻り損じの  
 ブーメラン

**編集後記**

今月十一日、サッカークワ  
 ールドカップ南アフリカ大会が  
 いよいよ開幕です。平素サッカ  
 ーは全く観ませんが、この時は  
 違います。参加国数、競技人口か  
 らいっても、最も世界的なスポ  
 ーツというのに異論のある方は  
 おられないでしょう▼前回二〇  
 〇六年ドイツ大会のオーストラ  
 リア戦、あの悔しさが甦つてき  
 ますが、選抜された代表選手は  
 国の威信と自らの未来をかけて  
 精一杯戦います▼しかし、日本  
 のE組はかつて経験したこと  
 のない競合揃いのグループです。  
 周囲に聞いてもまず予選突破は  
 ないと答え：。その分、前回  
 より予選で敗れても落胆度は  
 大きくないのかもしれない▼  
 いづれにしても、スポーツは勝  
 ち負けという現実が、残酷なほ  
 どがはつきりしています。そこ  
 がスポーツの魅力でもある訳で  
 すが、注目度が高ければ高いほ  
 ど、結果しだいでは個人はもと  
 よりその国におけるその競技の  
 未来に関わってきます▼期間  
 中、日本中がサッカーに熱狂す  
 るのしようが、温かい目で観  
 戦したいと思えます。十四日カ  
 メルーン戦、十九日オランダ戦、  
 二十四日デンマーク戦です。(塚)

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
 電話 0940-62-1311(代)  
 発行人 葦津幹之  
 編集人 大塚宗延  
 制作 ゼネラルアサヒ  
 印刷 ゼネラルアサヒ

宗像大社事務所  
 発行所 宗像

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円